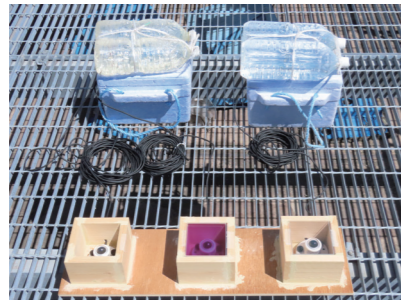


# ネットワーク

他の国々や都市、企業などと協力、連携しながら環境を守る取組を行っています。

## ●産学公民連携共同研究事業

産(企業)、学(大学・研究機関)、公(川崎市)、民(市民団体)と一緒に研究や技術開発を行います。それぞれの機関がもつ物・人・技術・情報を出し合い共同研究を行うことで、川崎市の環境課題の解決につながっています。



EC 調光ガラスの遮熱・遮光性能実験



株式会社ティエラポニカとの共同研究の一環で  
カワスイ 川崎水族館内に水耕栽培の展示物を設置

## ●広域連携による共同研究

国、他都市の研究機関や企業等と連携し、全国、広域の調査研究に参加することを通じて、川崎市の環境改善に役立っています。



東京湾環境一斉調査



## ●国際貢献の取組

海外都市との連携プロジェクトや海外からの視察や研修を通じて、川崎市の環境行政のノウハウや企業の環境技術を伝えています。また、国連環境計画(UNEP)等と連携し、海外の環境に関する取組の最新情報の収集や、海外の国々との情報交換を行っています。



川崎国際エコビジネスフォーラム (UNEP 共催)



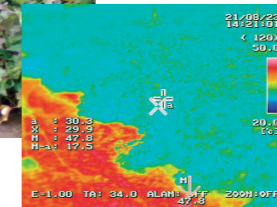
海外からの視察受入れ

## ●川崎市気候変動情報センター

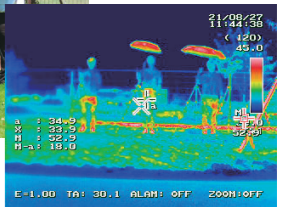
川崎市気候変動情報センターでは、ヒートアイランド現象や熱中症などの原因や対策について研究を進めています。また、地球温暖化による気候変動の影響や適応に関する情報を国の研究機関等との連携により収集・整理して、正しい情報と私たちができる取組としてわかりやすく発信しています。



都市農地の暑さ環境調査



日傘の暑さ抑制効果検証



## ●気候変動の影響に対応する対策

気候変動によって、以前より暑さがきびしくなっていたり、雨や雪の降り方が変わってきたりしています。その変化は、私たちの食料や健康などに様々な影響を与えています。



そこで気候変動に対して「緩和」と「適応」2つの取組が必要となります。

緩和とは？ 原因を少なく。2つの気候変動対策。適応とは？ 影響に備える。

緩和策の例：節電・省エネ、エコカーの普及、再生可能エネルギーの活用、森林を増やす。

適応策の例：熱中症予防、災害に備える、高温でも育つ農作物の品種開発や栽培。

温室効果ガスを減らし、気候の変化を極力減らすことが「緩和」です。気候の変化に対応してよりよい生活ができるようにすることが「適応」です。

私たち一人ひとりが気候変動への「緩和」と「適応」について理解を深め、行動していくことは、日本のみならず世界の未来のために大変重要です。

出典：気候変動適応情報プラットフォーム